

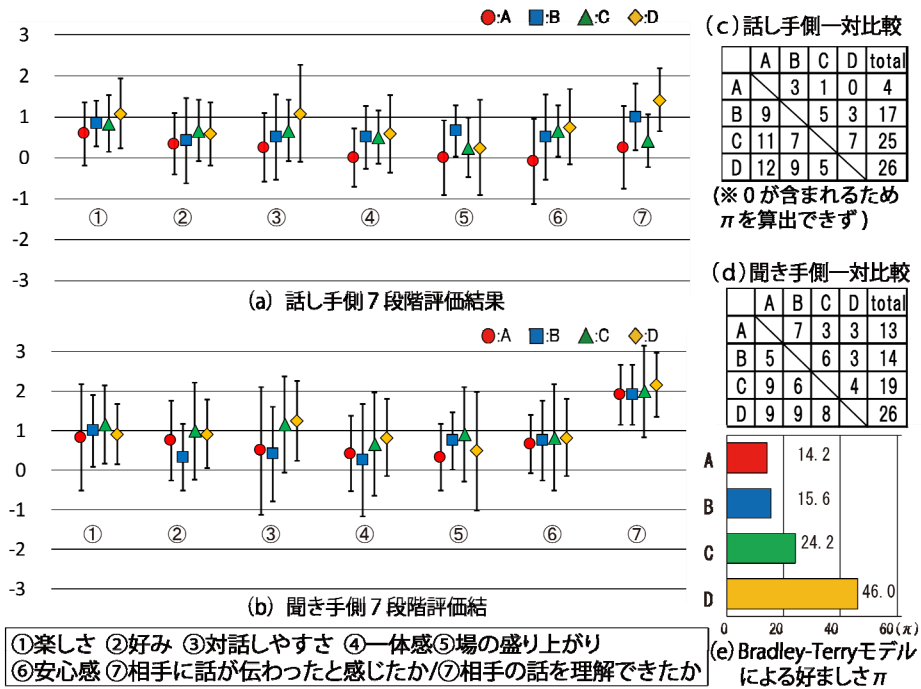
2020年度 独創的研究助成費 実績報告書

2021年 3月26日

報告者	学科名	情報システム工学科	職名	准教授	氏名	石井 裕
研究課題	身体的アバタを介した共存在感創出による自己肯定感向上					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	石井 裕	情報システム工学科 准教授	ヒューマン インタフェー ス	総括	
	分担者	久富 彩音 加藤 匠 黒川 智司 蔵本 涼太 中村 駿 森川 大輔	情報系工学研究科・ システム工学専攻・ 博士前期課程2年 情報系工学研究科・ システム工学専攻・ 博士前期課程1年		システム開発補助・データ 分析補助	
研究実績 の概要	<p>本研究では、これまでに自己参照型身体的アバタとそのアバタ影を用いた身体的アバタ影コミュニケーションシステムを開発し、有効性を確認している。しかし、対話者のアバタ実体もしくはアバタ影の頭部動作に自動生成によるうなずき反応を重畳合成した場合、内容を制限しない自由対話による評価実験では有効性が示されたものの、話し手・聞き手を決めた役割対話において聞き手側では期待されるほどの効果が得られなかったことが報告されている。役割対話においてもアバタ影のコミュニケーション支援効果を与えるため、聞き手側を支援する方法を検討する必要がある。そこで本研究ではアバタと植物型オブジェクトを同一空間で身体引き込み反応させることで植物型オブジェクトの存在が対話支援効果を示すのか検証を行った。植物型オブジェクトとアバタ影・アバタ実体の身体引き込み反応が与えるコミュニケーション効果について、自由対話と役割対話の2種類の実験を行い、アバタ影と植物型オブジェクトの両方を提示することで違和感が軽減でき、話し手・聞き手双方にとって良い支援方法となっていることが示された。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要



成果資料目録

論文

- 石川 誠彬, 江木 啓訓, 望月 俊男, 久富 彩音, 石井 裕, 結城 菜摘, 久保田 善彦, 加藤 浩: 協調的議論において共調整を促す対話型ホログラフィックエージェント, 日本教育工学会論文誌, Vol.44, Supplement, pp.185-188, 2021.
- 森川 大輔, 石井 裕, 渡辺 富夫: VR空間における複数非参加者を含む雑音環境を利用した発話支援システム, ヒューマンインタフェース学会論文誌, Vol.22, No.4, pp.403-410, DOI: https://doi.org/10.11184/his.22.4_403, 2020.

国際会議発表

- Mochizuki, T., Ishikawa, N., Egi, H., Hisatomi, A., Ishii, Y., Yuki, N., Kubota, Y., and Kato, H.: Face-to-Face Holographic Agent Used as Catalyst for Learning and Employing Co-regulation in Collaborative Discussion.; In M. Gresalfi, and I. S. Horn (Eds.) The Interdisciplinarity of the Learning Sciences: 14th International Conference of the Learning Sciences (Vol.3), 1733-1734, Jun. 19, 2020.

国内会議発表

- 久富 彩音, 石井 裕, 渡辺 富夫: 語りかけで成長する身体引き込みキャラクタを用いた発話継続システムの開発, 2020年度(第71回)電気・情報関連学会中国支部連合大会講演論文集, R20-25-0402, pp.1-2, 2020-11.
- 石井 裕, 渡辺 富夫, 黒川 智司: 自動生成による身体引き込み反応をアバタと聞き手オブジェクトに同期表示したコミュニケーション評価, ヒューマンインタフェースサイバーコロキウム論文集, pp.106-109, 2020-10.
- 森川 大輔, 渡辺 富夫, 石井 裕: 聞き手キャラクタへの語りかけにおける複数非参加者による音量調節可能な喧騒音と環境雑音提示の評価, ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.22, No.3, pp.71-74, 2020-5.